

日 本 国 特 許 庁
JAPAN PATENT OFFICE



別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office

出 願 年 月 日
Date of Application:

2001年 7月19日

出 願 番 号
Application Number:

特願2001-219935

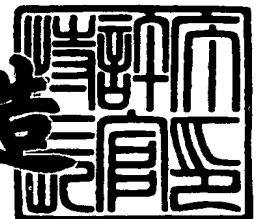
出 願 人
Applicant(s):

日本精工株式会社

2001年10月26日

特 許 庁 長 官
Commissioner,
Japan Patent Office

及 川 耕 造



出証番号 出証特2001-3095157

【書類名】 特許願

【整理番号】 01NSP040

【提出日】 平成13年 7月19日

【あて先】 特許庁長官殿

【国際特許分類】 F16D 3/41

【発明の名称】 十字軸継手

【発明者】

【住所又は居所】 群馬県前橋市総社町一丁目 8 番 1 号 日本精工株式会社
内

【氏名】 関根 博

【特許出願人】

【識別番号】 000004204

【氏名又は名称】 日本精工株式会社

【代理人】

【識別番号】 100077919

【弁理士】

【氏名又は名称】 井上 義雄

【手数料の表示】

【予納台帳番号】 047050

【納付金額】 21,000円

【提出物件の目録】

【物件名】 明細書 1

【物件名】 図面 1

【物件名】 要約書 1

【包括委任状番号】 9712176

【プルーフの要否】 要

【書類名】 明細書

【発明の名称】 十字軸継手

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

ヨークの軸受孔に、総コロ型のニードル軸受を介して、スパイダー軸部を揺動自在に嵌合した十字軸継手において、

ニードル軸受とスパイダー軸部は、シメシロ嵌合にしてあり、

ニードル軸受のベアリングカップ内のコロは、軸方向に 0.6 mm 以上移動可能に構成したことを特徴とする十字軸継手。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】

本発明は、例えば、車両用ステアリング装置に用いる十字軸継手に関する。

【0002】

【従来の技術】

車両用ステアリング装置においては、例えばステアリングシャフトのアップーシャフトとロアーシャフトの間に、一对のヨークと十字状のスパイダーとからなり、所定の折曲角度で回転しながらトルクを伝達する十字軸継手が介装してある。

【0003】

例えば、特開 2 0 0 0 - 1 7 0 7 8 6 号公報に開示した十字軸継手では、ヨークの軸受孔に、ニードル軸受を介して、スパイダーの軸部が揺動自在に嵌合してある。このスパイダー軸部の軸芯に形成した円錐状孔に、ニードル軸受のカップ内面の軸芯に形成した球面状突部が嵌合して圧接してある。

【0004】

これにより、車輪から振動が伝わったとしても、スパイダー軸部とニードル軸受の間の微小隙間を一様に維持し、両者の干渉による異音の発生を防止している。

【0005】

【発明が解決しようとする課題】

しかしながら、上記特開2000-170786号公報の構成では、各部品の寸法精度が低い場合には、十字軸継手をヨークに組込む際、スパイダー軸部の円錐状孔に、ニードル軸受のカップ内面の球面状突部を適当な予圧で接触させることが困難であり、その結果、スパイダー軸部とニードル軸受の間の微小隙間を一樣に維持できず、両者の干渉による異音が発生するといったことがある。

【0006】

一方、各部品の寸法精度を高くすれば、異音の発生を防止することができるが、反面、製造コストの高騰を招来するといったことがある。

【0007】

また、車両のステアリングシャフト操舵時、ステアリングホイールを回転させると、スパイダー軸部が揺動する。その揺動角は、車両でのジョイント取付角により定まり、通常の乗用車の場合、±30度程度である。スパイダー軸部の揺動により、ニードル軸受のコロは、滑らかに自転する。

【0008】

しかしながら、上記特開2000-170786号公報では、コロの軸心は、スパイダー軸部に対し平行でなく、傾いている場合が多く、コロは、その自転に伴って、ニードル軸受のカップ内を軸方向に移動する。このコロの軸方向の移動により、コロがカップ壁に当接し、コロとカップ壁との間で滑りが発生する。その結果、ステアリングシャフトの折曲トルクが大きくなって、滑らかな操舵感が得られないといったことがある。

【0009】

本発明は、上述したような事情に鑑みてなされたものであって、製造コストの高騰を招来することなく、スパイダー軸部とニードル軸受の干渉による異音の発生を確実に防止すると共に、ステアリングシャフトの折曲トルクを小さくして滑らかな操舵感を得ることができる十字軸継手を提供することを目的とする。

【0010】

【課題を解決するための手段】

上記の目的を達成するため、本発明では、本発明に係る十字軸継手は、ヨーク

の軸受孔に、総コロ型のニードル軸受を介して、スパイダー軸部を揺動自在に嵌合した十字軸継手において、

ニードル軸受とスパイダー軸部は、シメシロ嵌合にしてあり、

ニードル軸受のベアリングカップ内のコロは、軸方向に0.6mm以上移動可能に構成したことを特徴とする。

【0011】

このように、本発明によれば、ニードル軸受とスパイダー軸部は、シメシロ嵌合にしてあるため、製造コストの高騰を招来することなく、スパイダー軸部とニードル軸受の干渉による異音の発生を確実に防止することができる。

【0012】

しかも、ニードル軸受のベアリングカップ内のコロは、軸方向に0.6mm以上移動可能に構成してあるため、スパイダー軸部の揺動時にコロが自転してカップ内を軸方向に移動したとしても、コロがカップ壁に当接することがなく、コロとカップ壁との間に滑りが生じることがない。従って、ステアリングシャフトの折曲トルクを小さくして滑らかな操舵感を得ることができる。

【0013】

【発明の実施の形態】

以下、本発明の実施の形態に係る十字軸継手を図面を参照しつつ説明する。

（第1実施の形態）

図1（a）は、本発明の第1実施の形態に係る十字軸継手の部分切欠き断面を含む側面図であり、（b）は、（a）に示した十字軸継手の断面図である。

【0014】

図1（a）に示すように、十字軸継手では、一对のヨーク1、2の間に、十字状のスパイダー3が介装してある。具体的には、図1（b）に示すように、ヨーク1の軸受孔4に、ニードル軸受5を介して、スパイダー軸部6が揺動自在に嵌合しており、スパイダー軸部6の下部外周囲には、シール部材7が設けてある。

【0015】

また、スパイダー軸部6の軸芯に形成した軸方向孔8には、合成樹脂製ピン9が挿入してある。ニードル軸受5には、軸受孔4に嵌合した金属製のベアリング

カップ 1 0 が設けてあり、このカップ 1 0 の内側に、複数のコロ転動体 1 1 が配列してある。

【 0 0 1 6 】

従来、スパイダー軸部 6 とニードル軸受 5 が隙間嵌合の場合、車両での走行時に異音が発生する場合がある。

【 0 0 1 7 】

本実施の形態の場合、ニードル軸受 5 とスパイダー軸部 6 は、シメシロ嵌合にしてあるため、製造コストの高騰を招来することなく、スパイダー軸部 6 とニードル軸受 5 の干渉による異音の発生を確実に防止することができる。シメシロは、 $0 \sim 0.035 \text{ mm}$ であり、好適には、 $0.002 \sim 0.025 \text{ mm}$ である。

【 0 0 1 8 】

ニードル軸受 5 は、総コロ型で、カップ 1 0 の外径は、約 $15 \sim 16 \text{ mm}$ であり、コロ 1 1 の内接円径は、約 10 mm であり、コロ 1 1 の外径は、 $1.4 \sim 2.3 \text{ mm}$ であり、コロ 1 1 の数は、 $16 \sim 25$ 本である。

【 0 0 1 9 】

車両のステアリングシャフト操舵時、ステアリングホイール（図示せず）を回転させると、スパイダー軸部 6 が揺動する。その揺動角は、車両でのジョイント取付角により定まり、通常の乗用車の場合 ± 30 度程度である。

【 0 0 2 0 】

スパイダー軸部 6 の揺動により、コロ 1 1 が滑らかに自転するが、コロ 1 1 の軸心は、スパイダー軸 6 に対して平行ではなく、傾いている場合が多く、コロ 1 1 は、その自転に伴って、カップ 1 0 内を軸方向に移動する。

【 0 0 2 1 】

このコロ 1 1 の傾きは、実験の結果、前記シメシロ嵌合でも発生しており、コロ 1 1 間の円周方向隙間によりほぼ定まっている。

【 0 0 2 2 】

従来のステアリングジョイントの場合、揺動時のコロ 1 1 の軸方向の移動により、コロ 1 1 がカップ 1 0 の壁 1 0 a, 1 0 b に当接し、コロ 1 1 とカップ 1 0 の壁 1 0 a, 1 0 b との間で滑りが発生し、又、コロ 1 1、スパイダー軸部 6 間

の軸方向の滑りが発生し、折曲げトルクが大（揺動時の抵抗が大）となる。嵌合隙間がマイナス（シメシロ）の場合、この傾向が特に著しい。

【0023】

本実施の形態の場合、カップ10内のコロ軸方向隙間（M-N）が0.6mm以上にしてある。この隙間（M-N）は、数多くの実験結果より決定したものであり、好適には0.9mm以上である。即ち、ニードル軸受のベアリングカップ内のコロは、軸方向に0.6mm以上移動可能に構成してある。この結果、ジョイント折曲げ時、スパイダー軸部6の揺動時にコロ11が自転してカップ10内を軸方向に移動したとしても、コロ11がカップ10の壁10a, 10bに当接することがなく、コロ11とカップ10の壁10a, 10bとの間に滑りが生じることがない。従って、ステアリングシャフトの折曲トルクを小さくして滑らかな操舵感を得ることができる。

【0024】

なお、組立直後、コロ11がすでにカップ10の壁10a, 10bに当接している場合、又は、壁10a, 10bの近傍にある場合もある。この時、ジョイントを折曲げることにより、一旦は、壁10a, 10bに当接して、折曲げトルクは、重くなるが、その折曲げの戻し時には、壁10a, 10bから離れて、コロ11の傾きにより、逆方向（即ち中央方向）に動く。次に、最初と同方向に折曲げても、その折曲角は、コロ11がカップ10の壁10a, 10bに当接するまでであるため、折曲トルクが大となることはない。

（第2実施の形態）

図2は、本発明の第2実施の形態に係る十字軸継手の断面図である。本実施の形態では、合成樹脂製ピン9を使用していない。その他の構成・作用は、第1実施の形態と同様である。

（第3実施の形態）

図3は、本発明の第3実施の形態に係る十字軸継手の断面図である。本実施の形態では、カップ10の底壁に、スパイダー軸部6の端面に当接する突起部10cが形成してある。また、軸受のコロ11の端面が球面となっている。その他の構成・作用は、第1実施の形態と同様である。

(第4実施の形態)

図4 (a) (b) は、それぞれ、本発明の第4実施の形態に係る十字軸継手の断面図である。本実施の形態では、スパイダー軸部6を段付にし、コロ11との接触長さが短かくしてある。即ち、図4 (a) では、スパイダー軸部6の先端側の外径が小さくしてあり、図4 (b) では、スパイダー軸部6の基部側の外径が小さくしてある。これにより、軸受組付時、スパイダー軸部6との接触長さが短かいので、その圧入荷重が小さく、組立容易である。その他の構成・作用は、第1実施の形態と同様である。

【0025】

なお、本発明は、上述した実施の形態に限定されず、種々変形可能である。

【0026】

【発明の効果】

以上説明したように、本発明によれば、ニードル軸受とスパイダー軸部は、シメシロ嵌合にしてあるため、製造コストの高騰を招来することなく、スパイダー軸部とニードル軸受の干渉による異音の発生を確実に防止することができる。

【0027】

しかも、ニードル軸受のベアリングカップ内のコロは、軸方向に0.6mm以上移動可能に構成してあるため、スパイダー軸部の揺動時にコロが自転してカップ内を軸方向に移動したとしても、コロがカップ壁に当接することがなく、コロとカップ壁との間に滑りが生じることがない。従って、ステアリングシャフトの折曲トルクを小さくして滑らかな操舵感を得ることができる。

【図面の簡単な説明】

【図1】

(a) は、本発明の第1実施の形態に係る十字軸継手の部分切欠き断面を含む側面図であり、(b) は、(a) に示した十字軸継手の断面図である。

【図2】

本発明の第2実施の形態に係る十字軸継手の断面図である。

【図3】

本発明の第3実施の形態に係る十字軸継手の断面図である。

【図 4】

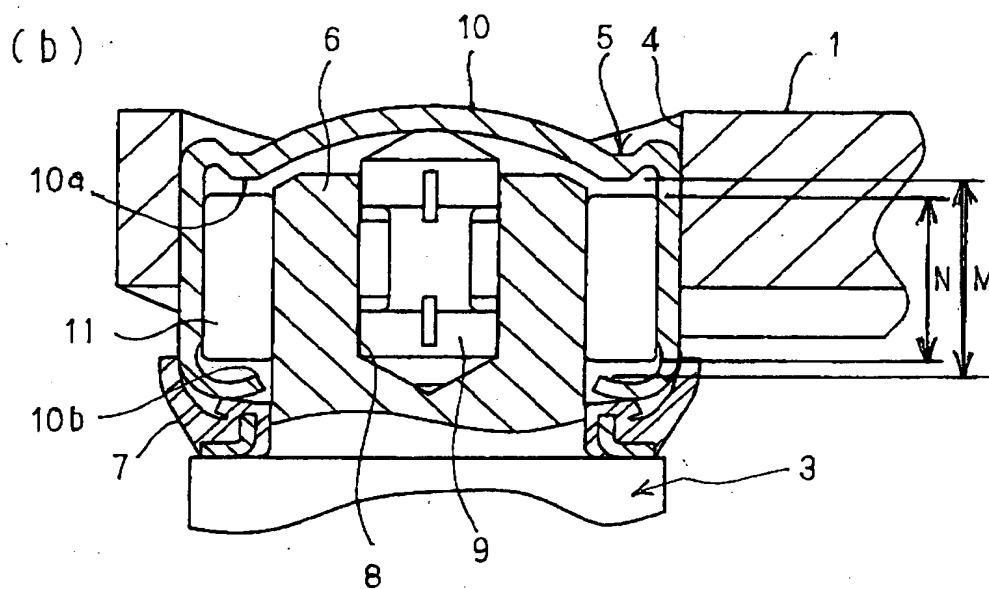
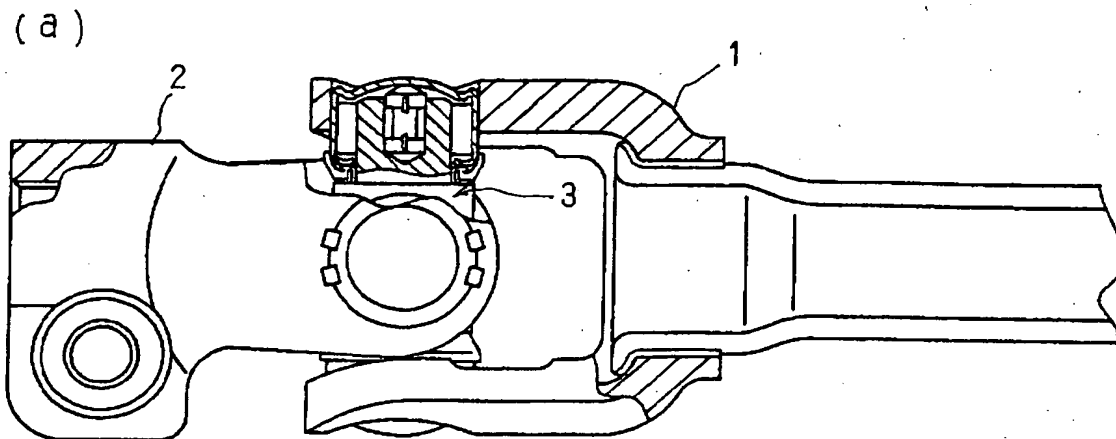
(a) (b) は、それぞれ、本発明の第 4 実施の形態に係る十字軸継手の断面図である。

【符号の説明】

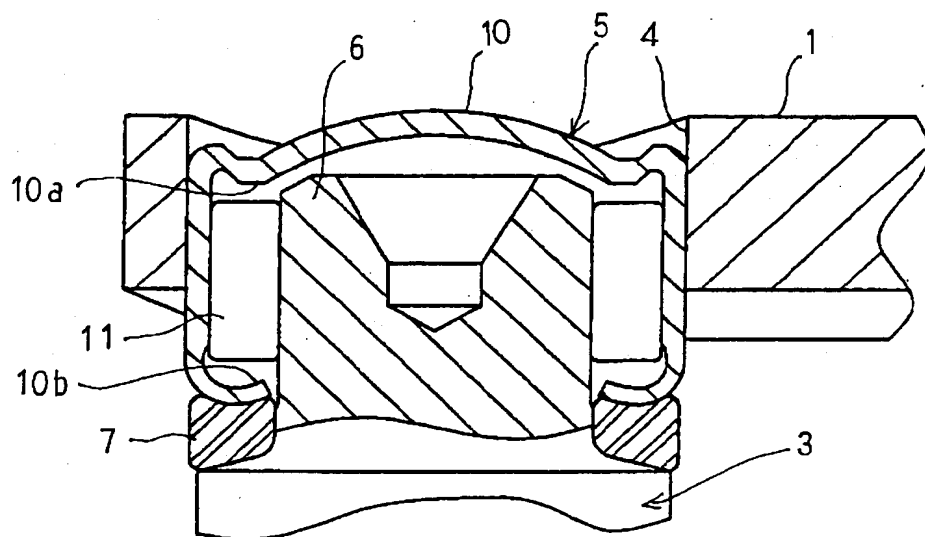
- 1, 2 ヨーク
- 3 スパイダー
- 4 軸受孔
- 5 ニードル軸受
- 6 スパイダー軸部
- 7 シール部材
- 8 軸方向孔
- 9 合成樹脂製ピン
- 10 ベアリングカップ
- 10 a, 10 b 壁
- 10 c 突起
- 11 コロ転動体

【書類名】 図面

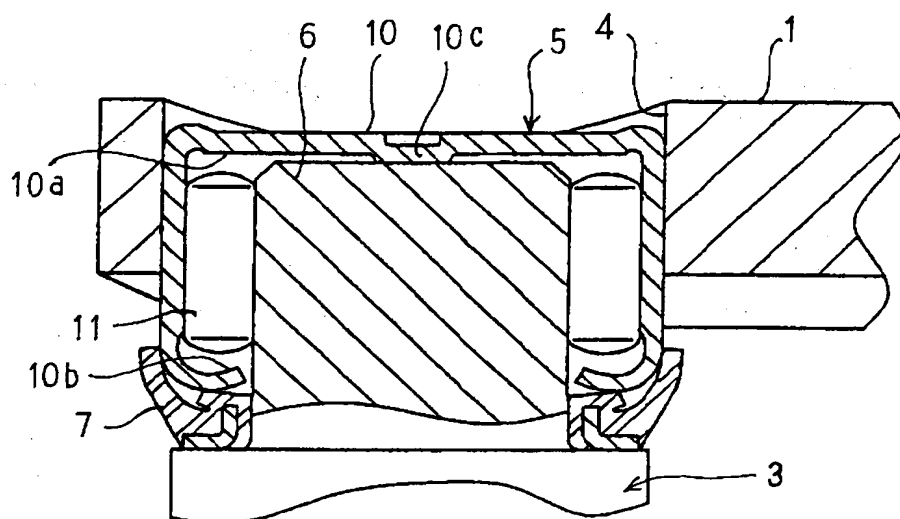
【図 1】



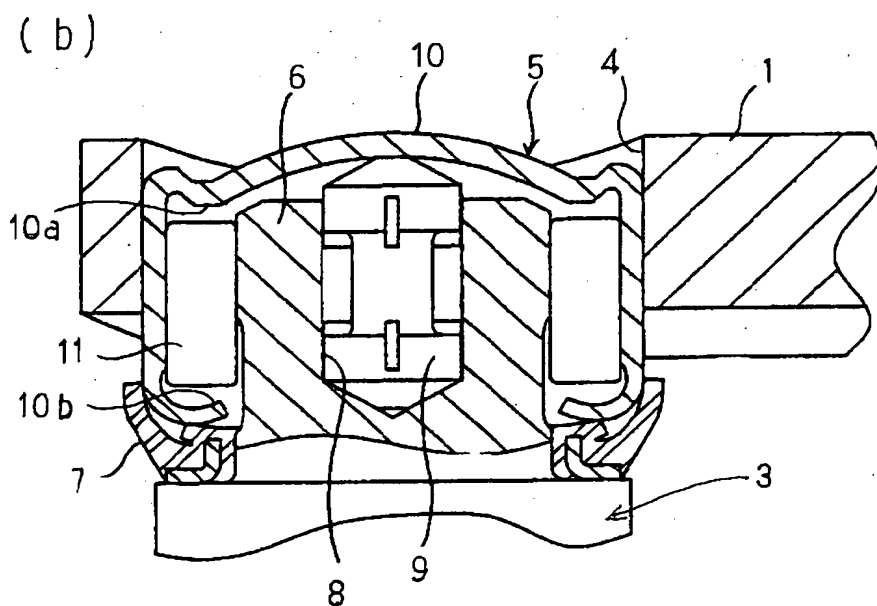
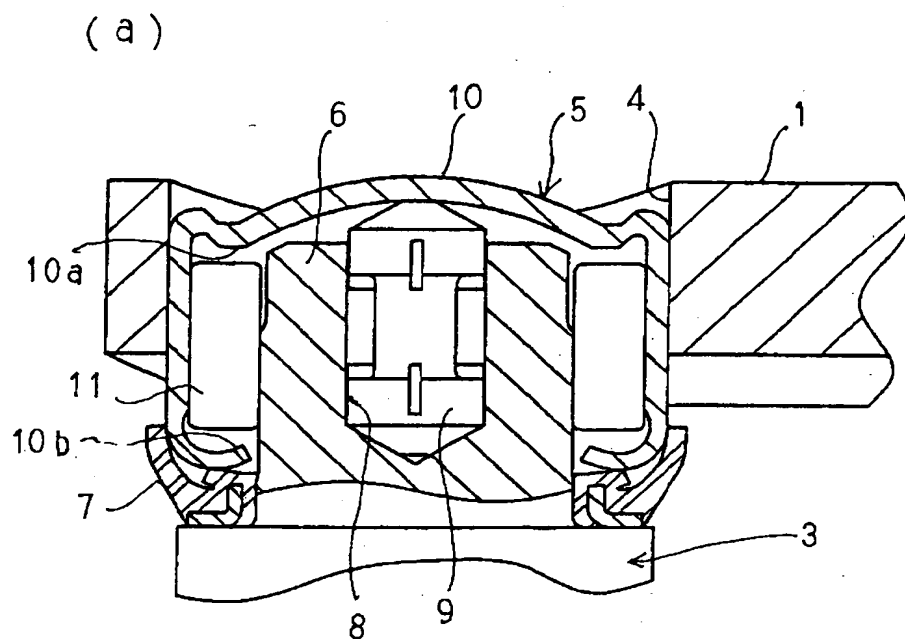
【図2】



【図3】



【図 4】



【書類名】 要約書

【要約】

【課題】 製造コストの高騰を招来することなく、スパイダー軸部とニードル軸受の干渉による異音の発生を確実に防止すると共に、ステアリングシャフトの折曲トルクを小さくして滑らかな操舵感を得ること。

【解決手段】 ヨーク 1 の軸受孔 4 に、総コロ型のニードル軸受 5 を介して、スパイダー軸部 6 が揺動自在に嵌合してある。ニードル軸受 5 とスパイダー軸部 6 は、シメシロ嵌合にしてあり、ニードル軸受 5 のベアリングカップ 1 0 内のコロ 1 1 は、軸方向に 0 . 6 m m 以上移動可能に構成してある。

【選択図】 図 1

出 願 人 履 歴 情 報

識別番号 [000004204]

1. 変更年月日	1990年 8月29日
[変更理由]	新規登録
住 所	東京都品川区大崎1丁目6番3号
氏 名	日本精工株式会社